



第28回リサイタル

# イルカ国物語

創立35周年記念委嘱オペレッタ

2000 2/27 (日) 13:00 大阪厚生年金会館芸術ホール  
主催・制作 大阪メンズコーラス



**OSAKA MEN'S CHORUS**



菅沼潤



松井 望 (作曲)



池谷浩一 (原作・脚本)

## 「未来へ向かうOMC」

2000年をきっかけにOMCは未来を見つめる様になりました。古いオペレッタを愛していたメンバーにとって今度のオリジナルは大飛躍です。そこで私は演出・振付に尚すみれを推薦しました。宝塚時代から今日まで、唯一心から信頼を置いて来た仕事仲間です。中国の傑れた演奏家をゲストに迎え、この作品が大きく皆様の心を捕らえる様願いつつ、今回の企画に心から拍手を送ります。

※菅沼先生（演出家）はOMCが過去3回行ったオペレッタ公演の演出をしてくださいました。

### ■プロフィール

茨木のり子の詩のみに作曲した、トーク・コンサート『松井望×茨木のり子』で作曲活動をスタートする。そして、古典文学をはじめ、谷川俊太郎・山之口穂・川崎洋・大岡信等の作品をテキストに用いたシアター・ピース&アンビエント系の音楽を中心、コンサート、ダンス、美術等の分野で数多くの作品を発表。

1986年、西武セゾン・グループより委嘱を受けた、モノオペラ『AMIJIMA』およびF・ザビエルの書簡をテキストにした200人のプレイヤーとバイオル・ガム+コーラスのためのオラトリオ『ザビエル東遷』が、そのユニークなサウンドと壮大さで注目され、メディア等で広くとり上げられる。その成果を携えての海外ツアーでは、世界の前衛アーティストと交流、国際的な評価を受ける。

その後、ポスト・モダン派宣言、1995年、アート発信基地としての『Tokyo Local Unit』を結成、世界の第一線で活躍するプレイヤーを招き、民族楽器とコンピューター・シンセ・サウンドを核としたノン・ジャンル=ライブ・セッションのコンサート・プロデュースおよび作・編曲にあたる。1997年、先鋭ユニット『S/H』（スラッシュ）をスタートさせ、そのリーダーをつとめるとともに、多国籍アート・ユニット『Planet Cafe』を組織し、その中心メンバーとして、インターネット関連の仕事からCD-ROMをはじめとするMEDIAのコンテンツまで、活動の範囲は尽きることがない。一方、文化庁芸術祭参加作品をはじめとする舞台作品、映像作品にも、多くの音楽、企画を提供、ミュージック・コンクレート、シアターピース、サンプリングなど、常に先端の分野を走り続けている。また、1987年、北京故宮博物院・編鐘のためにつくった『HENSYO-GA』は同院に永久保存されている。

### ■プロフィール

本名、生年月日等すべて不明。

一説では、神戸ポートピア博などのイベントで、当時としては画期的なレーザー光線を使ったパフォーマンスを行ったとか、そのパフォーマンスという言葉自体をはじめて使ったのも彼である、とかいう噂もある。

また、日本では、コシノ・ジュンコや岡本太郎と親交があったとも言われているが、その詳細を知る人は少ない。

ただ、確かなことは……。

20代の若さで、その前衛映像によってMOMA（ニューヨーク近代美術館）の招待作家となり、映像アートのコンペでは、審査員であった作曲家の富田勲が、彼の作品の素晴らしさに対して、スタンディング・オベーションで祝福した。

バブル期の日本での数々のアート・イベントにかかわった後、突如、日本を脱出。地球上、最もエキサイティングな場所に行けば、そこに彼の姿がある。

(N.M.記)



## イルカ国から愛をこめて 松井 望

「僕の曲こんなにカットされるの？」スタッフ・ミーティングで叫び続けた努力のかいもなく、大作オペラ『イルカ国物語』は、2時間半に短縮しての公演です（やっぱリルカのダンス入れたかったなあ。ああ、くやしや！尾崎さあ～ん、制作費もうちょっとなんとかなりませんか～！）。

坂本龍一も言っていたけど、オペラってもともと“opus（作品）”の複数形で、音楽あり、ダンスあり、芝居ありの大スペクタクル。5時間くらいあってもいいんじゃないかと思う。途中の休憩でワイン飲んだり（日本酒でもウーロン茶でもいいけど）、大道芸があったり、ノド自慢大会があったりして、一日中かけて“オペラ”三昧なんて最高だと思いませんか？

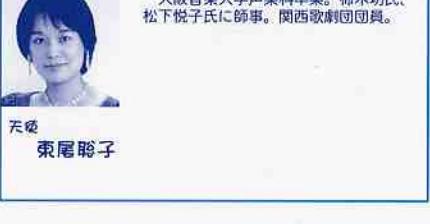
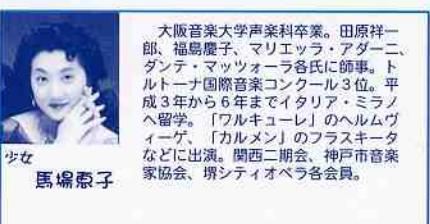
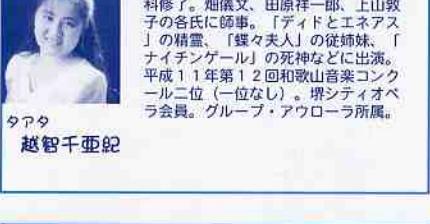
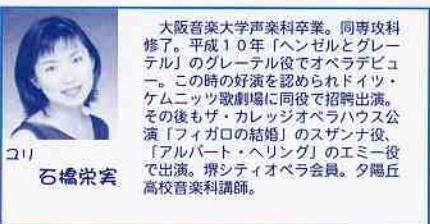
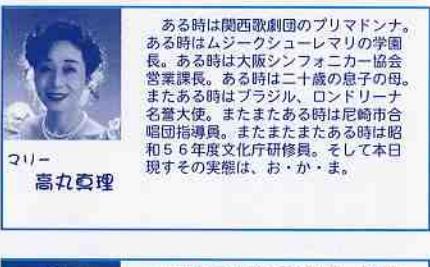
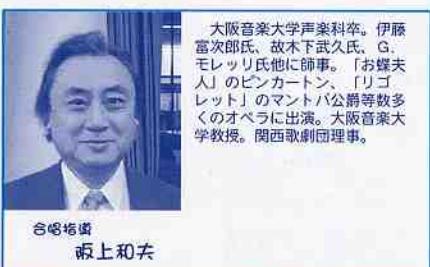
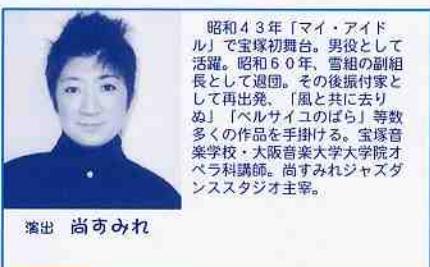
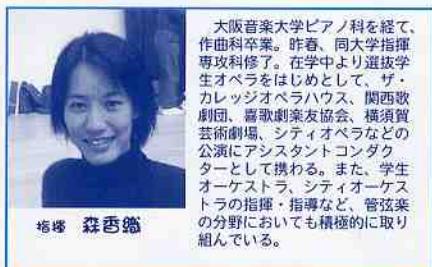
さてさて、今回出演の女性ソリスト達は、ニャンニャンとマリー以外は公募のオーディションで選ばれたミュージシャンです。予想どおり、レベルの高い歌手がワンサカ集まってくれました。その声を聴けるだけでもあなたたはラッキー、来たかいがあるというものの。日本の組織の害が言われていますが、アートの世界は公募がつくる！（コレ、僕の座右の銘）。世間には、とっても能力のあるアーティスト達がその出番を待っているのです。

ところで、この奇想天外な台本も公募で選ばれたのですが、作者の池谷氏は、20代の若さでMOMA（ニューヨーク近代美術館）の招待作家になって全米ツアーをやってのけた、早熟で天才肌のアーティストです。日本を脱出し、世界中に湧き出る新しい波動を求めて歩き回る神出鬼没の池谷氏、数日前のカトマンズからのE-mailでも「オペラは必ず聴きにいく！」と言ってきました。信義にあつい彼のことですから、ヒョッとするときこの文章を読んでいるあなたの横に、何くわぬ顔をして座っているかもしれません。ニヤっと笑みをうかべて二日酔いで疲れたネズミ顔の（若い頃はハンサムだった）歯のない中年男を会場で見つけたら、間違いなくその人が彼です。

このオペラのテーマは『ボーダーラインを越える小さな勇気』です。我々それぞれの心の中にある『国境』に気づいて、それを越えていくのは簡単なことではなさそうですが……。しかし、そんなことなどまったく意に介さないかのように、今日も、明日も、そしてその後も、地球は回り続けます。

どうぞ、このオペラをお楽しみ下さい。そして、あなたの感じたままを僕に伝えて下さい。そこから、また新しい『オペラ』が生まれてくる、と確信しています。

# ★ ゲストの紹介 ★



## ♪ オーケストラ：イルカ国祝祭管弦楽団 ♪



第1ヴァイオリン：林泉  
コントラバス：南出信一  
トランペット：菅沼真一

第2ヴァイオリン：吉川聰  
フレート：坂尾和美  
バーカッショニ：越田早穂子

ヴィオラ：小倉幸子  
クラリネット：小川哲生  
ビアノ：岡本佐紀子



## ★ スタッフの紹介 ★



進行 ワタル



小道具 還容詠子



進行舗 大石彩 (左)  
村松裕子 (右)



衣装 南かおり (左)  
長谷川一平 (中)  
谷田知子 (右)



プログラム 互藤智奈子 (キャブテン) (左)  
理 (口 1) (中)  
(右)

## \* OMCメンバーの紹介 \*



ポール 安藤邦昭



将校 有田仁一



チュウチュウ 芦田貴雄



アナウンサー 粟津重光



客 藤井章雄



ジョージ 藤川雄紀



ジョン 後藤恵一



将校 堀清



将校 石津佳彰



司祭 岩間克昭



バーテン 地主光太郎



司祭 鎌田昌彦



将校 加藤克雄



将校 川合恭



将校 北場栄和



司祭 小林協



客 近藤恭



客 黒田武



将校 桑田明和



司祭 松岡康生



客 森山伸一



客 村川真人



司祭 村松繁紀



將軍 中西純三



大司教 尾崎公昭



将校 佐竹広吉



バーテン 左手豊文



部隊長 高木武史



モハメット 高橋佳己



客 田中龍一郎



司祭 豊田千之



将校 宇野健一



司祭 安井直人



司祭 米岡泰



ヤマモト 厨子雅哉

# ★イルカ国物語について★

ご自宅に帰ってじっくり思い返してください。

時は、陸地のすべてが水没し、生きとし生けるもの全てが海の底に生活の舞台を移した〇〇世紀。「伝説と予言の書」をもち、宗教と規律が支配する「イルカ知本主義共和国（通称：イルカ国）」と、イルカ以外の海の生物と新魚民で構成された混合国家、「甲殻・魚貝類合衆国（通称：魚貝国）」（自由だが、失業率45%）の二国が、不可侵の国境をへだてて併立するなか、イルカ国の少女ユリが国境線を越えて合衆国に入り、そこでネズミ魚の少年チュウチュウ（実はミッキーマウスの末裔）と恋におちるのです。（作曲者）



## 【登場人物】

### ★ユリ

イルカ国の大聖堂付聖歌隊に属する純真無垢という言葉がぴったりの美少女。未来を託された大切な存在である。聰明で強い意志と勇気をもつ。ある日、未来を予見する何かに導かれて冒険を始める。

### ★チュウチュウ

魚貝国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★ジョージ

魚貝国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★ポール

イルカ国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★ニヤンニヤン

魚貝国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★モハメッド

祖先はラクダだったという「どん底」の店員。常連客とはすっかり顔なじみ。女将さんには怒られ通じでどうしても頭があがらないが、彼女の本当のやさしさを知っているよき理解者。とても信心深い。

### ★居酒屋「どん底」の常連客

ちょっとたよりない兵士のジョンとヤマモト、紅一点のタアタなど、安酒を飲みつつ酔っ払っては女将さんを相手にグチばかりのなじみ客たち。とはいっても根は明るく、よそ者にもあたたかい庶民である。

### ★マリー

イルカ国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★大司教

イルカ国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと氣弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★司祭たち

大司教のもと、「海の聖母」を篤く信仰する。宗教が支配するイルカ国では第1位の階級であるが、たまには人込みにまぎれ、酒場にくりだす生臭な面も。第2階級の軍人たちとは全くソリが合わない。

### ★イルカ国の中の街の使い走り

平和な世の中にあきあきしている。軍人より高位に属する司祭たち（とくに大司教）に対する反感をかくそうともせず、機会があれば大司教と司祭に代わってイルカ国を支配したいと考えている野心家。

### ★イルカ国軍隊の将校と兵士たち

将軍に率いられたイルカ国の中の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと気弱だが純情で誰からも好られる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

### ★コロスたち

正体不明の黒衣。ナレーターやバックコーラスを務めたり、ときに背景の一部になったり、飲み屋の客に紛れ込んだりと変幻自在。が、本当に影ながらヒロインたちを応援する心やさしき男たちである。

## ◆最初の風景◆

幕があがると、海中のイメージがあらわれる。その間にイルカが自由に泳ぎ回っている。そこへ黒衣の男たち（コロス）が現れ、この物語の序章ともいべきイルカ国の中の街の使い走り。この星は海だけの星になった。

「イルカ国に伝わる『伝説と予言の書』には、古代、海の上に陸地が広がり、ありとあらゆる生き物が空と海の間に暮らしていたと記されている。しかし、ホモ・サピエンスなる生き物が傍若無人の行いの末、神の怒りに触れすべての陸地が海に沈んでしまい、この星は海だけの星になった」

「イルカ国なら誰でも知っているこの『伝説と予言の書』にある未来には、『いつの日かこの海の生き物の中に光り輝く翼をもつ者が産まれたとき、すべての生き物が自分のなりたい姿に生まれ変わり、この地球上に再び陸地が現れるであろう』とも記されている」

こうしてイルカ国と魚貝国の中の街の使い走り。話は進んでいく。

◆魚貝國の安酒場「どん底」の風景◆  
さういふいい女将さんのニヤンニヤンとその店員であるモハメッドと常連客のなじみ客たち。

◆魚貝國の居酒屋「どん底」とその周囲の風景◆  
走り使いのチュウチュウに案内された「どん底」でユリを見つけられないことにすっかり弱気になってしまったポール。一緒に落ち込んだチュウチュウの前に突然美少女が現れる。

◆両国の国境の風景◆

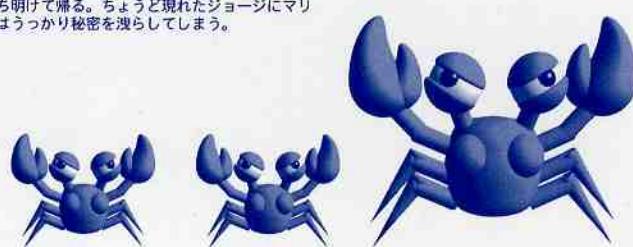
ヒマをもてあまし居眠りを始めたイルカ国側の警備隊兵士・ポールと魚貝國側の警備隊兵士・ジョージ。突然かわいい少女が現れている。2人の脳をすりぬけ、簡単に国境を越える。その後やってきたポールの上官と兵士が、大事な少女ユリが行方不明になつたことを告げ、必ずさがしだすよう命じる。ポールとジョージはユリをさがすために制服を取り替え、互いの国に向う。

◆チュウチュウの下宿での風景◆

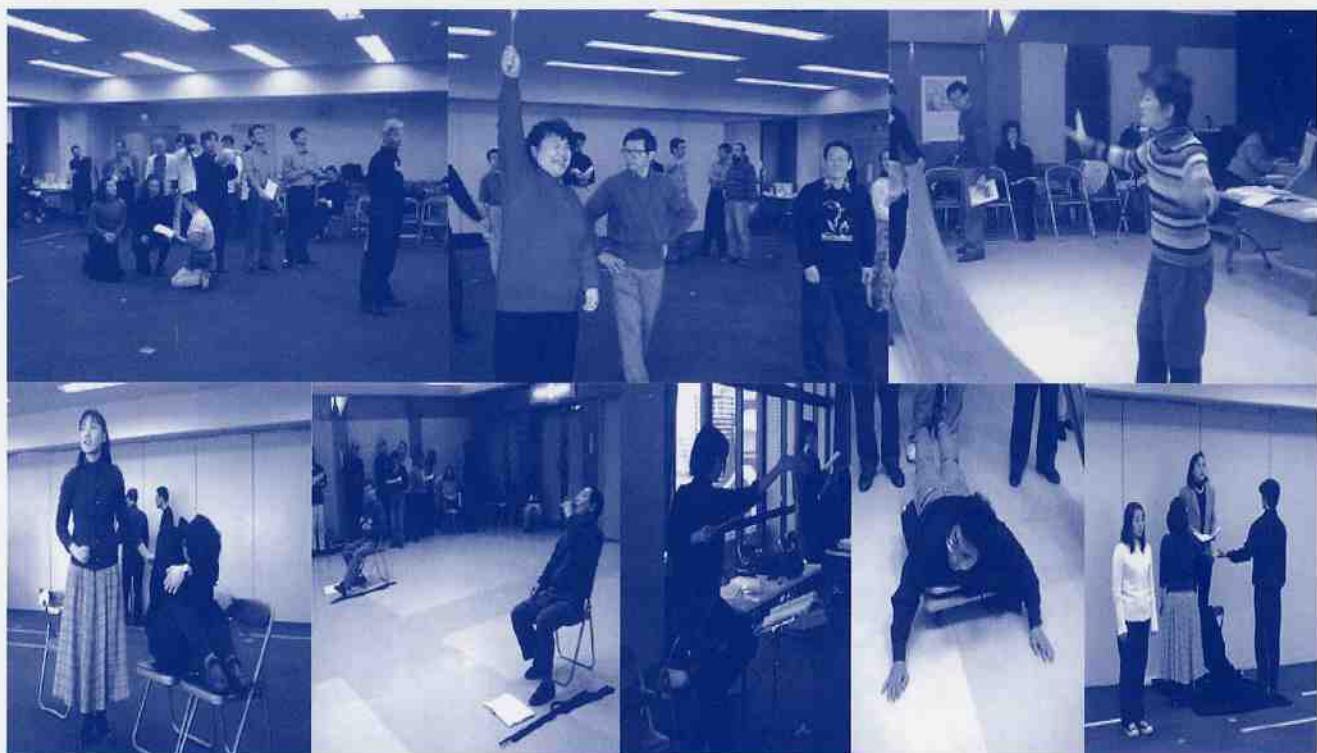
チュウチュウはこれまでのいきさつを下宿に連れて帰ったユリに説明する。2人は互いを思いやり、やがて愛情に変わる。そこに血相を変え、ポールを探しにジョージが飛び込んでくる。二人を見て微笑ましく思うが、少女がユリとわかつて頭をかかえこむ。

◆居酒屋「どん底」の風景◆

舞台の一方にイルカ国の中の街の使い走り。一方、魚貝國の「どん底」でもラジオを聞いた客たちが騒ぎ出す。そこに居たポールは自分がイルカ国の人であること、失踪した少女ユリをさがしに来ていること、そのために戦争が起きていることを皆に告げた。戻ってきたジョージはユリとチュウチュウが偶然にも恋仲であることを伝えると、皆は驚く。そこへ、当の二人が現れる。二人を祝福する客たち。しかし、ポールとジョージは戦争のことを考え浮かない表情。事情を察したユリは、戦争を止めようと国境に連れていくように言う。二人の行く末を心配する客たちの制止を振り切って、ユリは戦場に向かう……。



# 練習風景



## 前回リサイタルからのあゆみ

1998年

12月 第27回リサイタル

1999年

1月 第27回出帆式（OMCの総会）

2月 関西歌劇団「地獄変」出演

3月 関西フィル「ザ・ブーランク」出演

6月 関西歌劇団「魔笛」出演

7月 新宮演奏旅行

7月 第35回OMC夏のバカンス

10月 「イルカ国物語」女声ソリストオーデション

2000年

2月 第28回リサイタル

クレオ大阪北ホール

スパワールド

メイシアター

ザ・シンフォニーホール

アルカイックホール

新宮職業訓練センター

椿付近のOMCビーチ

厚生年金会館芸術ホール



## ★キャプテンあいさつ

二千年を通り越して早二ヶ月が経ちました。カウントダウンの時はハラハラしましたが、明けてしまうと「ご飯よーけ炊いてしもて、餅もあるのにどないしょ」とお嘆きのご家庭も多かったと存じます。OMCは創立35年、ミレニアムには及びませんが一つの節目を迎えました。そこで今回は一線を越える演目をやろうと意気込んでいます。演目のテーマはずばり「境界」です。「誰も越えられない境界を名もない小さき者が越えていく」といったストーリーです。少ない努力でいかにカッコ良く目立つかを追求するOMCメンバーには不似合いですが、成りきって演じてみせましょう。

今の世の中、冷戦が終わってみても民族紛争が絶えません。こんな時こそ月光仮面と仮面ライダーを足して百倍した様なスーパー激ヒーローに何とかしてもらいたいのですが、期待薄です。過去も未来も「世の中がOKだから私もOK」といった筋書きは無理な様です。ここは一つ「私も貴方もOKなので世の中もOK」といった順番にしたいものです。名もない小さき者の勇気が大切です。「私は人類を愛し世界を愛しています。でも隣のあいつは大嫌い」では困ります。21世紀を展望するOMCは、世界平和を目指してこの公演をお届けします。

今日の公演をご覧になって「あんなに面白くて世のためになるなら、試しにやってみよう」という方のご参加を募っております。お気軽にお出で下さいませ。5月にビッグな催しがありますので、是非ご一緒しましょう。

練習 毎週月曜19:00~20:45  
梅田東生涯学習ルーム

月会費 3,000円ポッキリ  
学生は1,000円ポッキリ

問合せ 075-982-4096 (有田)

日韓男声合唱交歓演奏会  
平成12年5月20日(土)  
17:00開演  
尼崎アルカイックホール  
韓国男声合唱団  
東京リーダーターフェル1925  
大阪メンズコーラス